

世界デフバスケットボール  
選手権大会出場!



8月30日、聴覚障害者による「第3回世界デフバスケットボール選手権大会」(9月16~24日・イタリア)に日本代表として出場する榎並泰徳さん(大塔町)が市役所を訪問しました。榎並さんは幼いころ、病気で両耳の聴覚を失いましたが、中学からバスケットボールを始め、ろう者や健常者のチームで練習を続けてきました。今回、初めて日本代表選手に選ばれ、主将を務める榎並さんは「とても光栄に思います。1試合でも多く勝てるよう頑張ります」と市長に意気込みを語りました。

本市初!  
市職員を廈門市へ長期派遣



本市は、中国からの観光客誘致や市内事業者の中国での事業展開をサポートできる職員を育成するため、姉妹都市の中国・廈門市(アモイ)に2年間派遣する野中めぐみ主事(職員課)に8月30日、辞令を交付しました。海外への長期派遣は初めての試みとなります。野中主事は現地の行政機関での翻訳業務や政府系旅行会社で手続き業務などを担当します。朝長市長は辞令交付式で「市役所の代表として頑張ってもらいたい」と激励し、野中主事は「多くのことを吸収し、佐世保のために役立てるように頑張ります」と決意を述べました。



500年以上続く 江迎地域の祭り  
水かけ地蔵まつり

8月23日、24日、江迎地域で「千灯籠まつり」のメインイベント「水かけ地蔵まつり」が開催され、子どもたちの「わっしょい! わっしょい!」の掛け声とともに、町のあちらこちらで激しい水しぶきが上がりました。この祭りは、地元の寿福寺に安置されている地蔵が子どもたちと水遊びをすることで悪疫を追い払うなどの言い伝えにちなんで、約500年の歴史があります。

寺に集まった子どもたちは地蔵に酒を掛けてから、地蔵を乗せたみこしを担ぎ、山門を抜けて嘉例川へ。川で勢いよく水を掛けた後、商店街など約2キロを練り歩きました。沿道では住民がバケツなどで水を浴びせ、1年間の無病息災を祈りました。

江迎地域には、地蔵まつりの際に、灯籠を各家庭の軒先に飾ったり、お寺の参道に奉納したりする風習があり、いつしか千灯籠と呼ばれるようになりました。

